

粘り強い走りを見せた選手たち



箱根駅伝予選会

陸上競技部は、総合9位で東京箱根間往復大学駅伝競走予選会(10月23日、東京都・立川市)を突破した。日本人3位の快走でチームをけん引した高瀬桂をはじめ、10人が200位以内でゴール。各選手が力の限り、粘り強く走り切った。

陸上競技部は、今年度「伝統への挑戦 Next Stage」をスローガンに掲げている。総合20位に終わった前回の箱根駅伝から大きく成長し、次のステージへ。本選でシード権獲得を目指す。(山口由結・文)

高瀬 日本人3位



予選突破を喜ぶ出場メンバー

チーム一丸 粘りの走り

本選で勝負

主将 国増 治貴

2年連続出場を決めることができ、昨年がまぐれではないと証明することができた。個人としては後半失速してしまったが、チームの力になれたと思う。前回の本選は区間20位と全く勝負できなかった。今年はしっかりと練習を積むことができたので、区間10位以内を目標に頑張りたい。

チームの底上げ実感

監督 長谷川 淳

今回の予選会は当日のコンディションが非常に難しい大会だったが、選手たちが後半、よく粘って走ってくれた。コロナ禍での日々のトレーニングは困難な状況もあったが、たくさんの方々を支えられ、本選への切符をつかむことができた。今回の結果を受け、チームの底上げができていると感じている。まだまだ改善点は多いが、本選は感謝の気持ちを胸に、シード権を狙って頑張りたい。応援よろしくお願ひします。

順位	記録	氏名	学部学年	出身校
10	1:02:49	高瀬 桂	経営3	鳥栖工高
23	1:03:04	ダンカン キサイサ	経営1	大分東明高
106	1:04:26	水谷 勇登	経営2	敦賀気比高
117	1:04:34	野下 稜平	経済2	鳥栖工高
121	1:04:36	横山 佑羽	文4	三浦学苑高
141	1:04:46	吉岡 拓哉	経営3	我孫子高
153	1:05:03	南 美空翔	文4	樟南高
154	1:05:07	佐々木 詩音	経営4	専大北上高
163	1:05:12	国増 治貴	経営3	豊浦高
171	1:05:21	服部 友太	経済4	専大松戸高
208	1:06:00	小島 光佑	経営3	北見緑陵高
341	1:08:28	粟江 倫太郎	経営2	三浦学苑高

予選会出場選手



果敢にポイントを狙う成田(左)写真提供・竹見脩吾氏

全日本フェンシング選手権大会(個人戦) 11月9日・11月16日、世田谷区・駒沢体育館ほか

女子エペ・成田 堂々の3位

東京五輪の日本代表選手が出場する国内最高峰の大会に、男子7人、女子5人が出場。女子エペで成田琉夏(文3・聖霊女子短大付高)が堂々の3位入賞を遂げた。準決勝で東京五輪代表の佐藤希望選手に11-15とわずかに及ばず敗れ、決勝進出を逃した。成田は「直前の試合で納得のいく成績を残すことができていなかったの

500m 大会記録で北京五輪へ名乗り

全日本スピードスケート距離別選手権大会 10月22・24日、長野県・長野市オリピック記念アリーナ

スピードスケートのシーズン開幕を告げる今大会。男子500mで森重航(経営3・山形中央)が大会記録に並ぶ34秒64で初優勝を飾った。ヨナルチームに加わり、「今シーズンからナシ」どこまで成長できている



森重が初優勝

大会記録で初優勝を果たした森重

「今シーズンからナシ」どこまで成長できている

1000mで3位となった野々村太陽(経営2・白樺学園高)とともに日本代表として、ワールドカップ(W杯)前半戦に参戦する森重。W杯の結果と12月の代表選考会の結果で選ばれる北京五輪代

関東学生フェンシング選手権大会(10月14・22日、東京都)のエペ団体で男女ともに優勝した。出場メンバーは男子(齊藤憲司(商4・東亜学園高)▽菊池正太郎(文3・岩国工高)▽伊藤海之亮(法1・栃木商高)▽大谷謙介(経営1・岩国工高)。

女子(成田琉夏▽西脇有咲(人間科学3・大垣◇フェンシング部 成田琉夏 ワールドカップ・タリン大会(11月17

男女ともに優勝

関東学生選手権・エペ団体

不安な気持ちが大きか「を出すことができた」と、自分らしい試合振り返った。(藤本珠莉・商1)

10月10日、長野県で行われた全国ジュニア・エペフェンシング選手権大会では、女子の部で齊藤華南が準優勝に輝いた。世界ジュニア選手権大会日本代表選考のポイント付与大会で、全国から有力選手が集うなか、齊藤は快調なプレーで決勝に進出した。

決勝は12-13で惜敗したものの「久しぶりのジュニアの試合で緊張したが、落ち着いてプレーすることができた。2位という結果だったが、いい経験になった」と気持ちを新たに。 (藤本)

齋藤が準優勝

全国ジュニア・エペ

10月10日、長野県で行われた全国ジュニア・エペフェンシング選手権大会では、女子の部で齊藤華南が準優勝に輝いた。世界ジュニア選手権大会日本代表選考のポイント付与大会で、全国から有力選手が集うなか、齊藤は快調なプレーで決勝に進出した。

決勝は12-13で惜敗したものの「久しぶりのジュニアの試合で緊張したが、落ち着いてプレーすることができた。2位という結果だったが、いい経験になった」と気持ちを新たに。 (藤本)



国際大会 出場選手

22日)※女子エペ 齋藤華南 ワールドカップ・タリン大会※女子エペ 大谷謙介 ワールドカップ・スペイン大会(11月19・21日)※男子エペ